

# 魅力的デザインと機能充実

## 地域性・歴史性を考慮

大阪市高速電気軌道（大阪メトロ）は、御堂筋線淀屋橋、本町、大國町、天王寺と中央線大阪港、弁天町、本町、谷町四丁目、森ノ宮の延べ9駅のリニューアルデザインを発表した。各駅は、同社が「地下空間の大規模改修」と銘打って進める両線主要駅のリニューアル事業の対象駅。2019年8月に発表済みの御堂筋線梅田、心斎橋など5駅のデザインに次ぐ。今回の9駅のリニューアル計画は、25年の大阪・関西万博前の完成を目指して取り組んでいく。

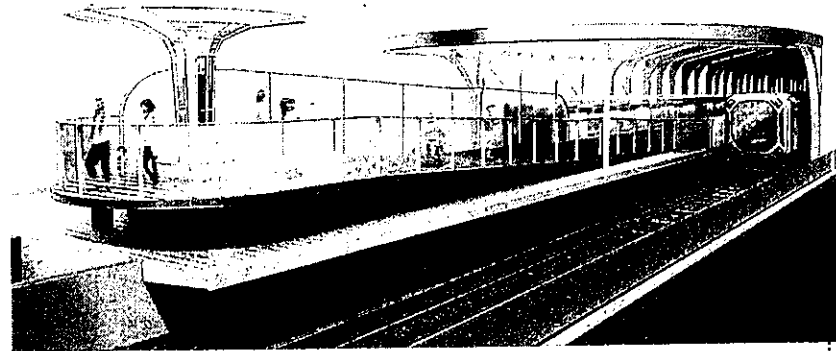
### 大阪メトロ

両線の主要駅リニューアル事業は、老朽化した駅の壁・天井の剥離や落下の防止対策など、安全性を確保する工事に合わせて、魅力的なデザインや機能を充実させ、駅自体を楽しんでもらえる空間提供を目指している。

基本方針には、▽今後50年間メンテナンスできる体制を整えながら、維持できるものは維持し、それを尊重した全体デザイン▽元の意匠を尊重しながら、最新の現代技術も随所に取り入れ、それを調和させた全体デザイン▽安全面などの理由で変革すべき場合は未来に残す価値がある新規デザイン——を行うことを据えている。同時に、それぞれの駅の地域性・歴史性、魅力を徹底して深掘りし、活用することを考慮した。

## 9駅リニューアル計画

### 25年の大阪・関西万博前に



④大國町駅の展示スペースイメージと⑤海を臨む立地を生かした大阪港駅の展望デッキイメージ

## 9駅のデザインコンセプト・計画概要

### 【淀屋橋駅】

デザインコンセプト「アーチ構造の象徴」

古くから政治・経済の中心地として大阪を支えてきた駅周辺エリアの伝統と格式を、重厚感のある石材やモノトーン基調で表現する。また、現状のシャンデリアを記憶のモニュメントとして踏襲する。

### 【御堂筋線本町駅・中央線本町駅】

「インターセクション」

大阪を代表する2路線が交わり、万博とその先の未来をつくることをコンセプトに、高い機能性と象徴性の調和する駅を目指す。

御堂筋線本町駅は、ダブルアーチの天井形状と柱の造形を生かしながら、高級感のある素材と最新の照明計画により、モダンとクラシックが共存するデザインとする。中央線本町駅も、御堂筋線と同じく高級感のある仕上げ素材と、最新の照明計画を採用する。

### 【大国町駅】

「地下構造が美しい駅」

御堂筋線と四つ橋線の4線が一つの空間で行き交う同駅にあって、それらを支える地下

構造の美しさを強調したデザインとする。列車が走る軌道の天井は、美しさをより際立たせるライティングで魅力的な空間に仕上げる。

南のコンコースには車両模型や車両の歴史に関する展示スペースを設ける。展示スペースは、実際に走る車両を奥の窓から見ることができる構造とし、模型と実際の車両を同じ空間で楽しんでもらえるようにする。

### 【天王寺駅】

「柱の美、格子の美、光の美」

天井の印象的なグリッドと、連続する柱の美しさを照明の明かりで際立たせながら、よりクリーンで立体感や柔らかな雰囲気を用意した空間を演出する。

### 【大阪港駅】

「海」

唯一、海を臨む地上駅としてその臨場感を生かし、エンターテインメント性、観光地としての特性を分かりやすく演出するため、大海原を泳ぐ大型の海洋生物のイメージを駅舎のデザインに生かす。

ホーム西側の先端部には、パラソルやクジラの潮をイメージしたシンボルがある展望デッキを設けて、海をより近くに感じてもらえるようにする。

### 【弁天町駅】

「ステーション アート」

万博やI R（統合型リゾート）を控え、明るく使いやすい駅とする。また、大型デジタルサイネージを導入することで、照明、映像による演出を行い、アートを体感できる空間に昇華させる。

### 【谷町四丁目駅】

「ジャポネスク」

大阪のシンボルである大阪城に最も近接する駅として、和を柱や壁のグラフィックとして表現し、次世代への新たな美として世界へ発信する駅を表現する。

### 【森ノ宮駅】

「フォレスト」

市民が憩いくつろげる自然のある大阪城公園に隣接した立地を生かし、柱などの随所に木の枝の表現を取り入れる。家族連れや訪日客など全ての人々が集い親しむ、開かれた森のような駅を目指す。